

ISO（国際標準化機構）TC8（船舶海洋技術）パナマ会議報告

一般財団法人 日本舶用品検定協会
吉田公一

開催日：2014年10月27日～31日

場所：International Maritime University of Panama パナマ国際海事大学
Universidad Maritime International de Panama (UMIP)
Calle College, Ciudad de Panama

出席国及び機関：

10カ国：中国、デンマーク、ドイツ、イタリア、日本、パナマ、韓国、ロシア、英国、米
国

3機関：ISO、BIMCO、IACS

日本からの出席者

今津隼馬 東京海洋大学名誉教授(SC6 議長)、
田中護史、石原 彰、長谷川幸生：(一財)日本船舶技術研究協会
吉田公一：(一財)日本舶用品検定協会 (SC2 議長)
諸野 普：日本舶用工業会

ISO/TC8 について

ISO/TC8 は現在、25 の P メンバー（投票権あり）、27 の O メンバー（オブザーバ）が
参加しており、傘下に 10 の専門委員会を持っている。

TC8 の議長は米国、事務局は中国とドイツが共同で行っている。

SC1：究明及び防火設備、英国が議長、米国が事務局
SC2：海洋環境保護、日本（吉田公一）が議長、米国が事務局
SC3：機械及び配管、中国が議長代理、米国が事務局
SC4：甲板機械、中国が議長及び事務局
SC6：航海設備、今津隼馬教授（日本）が議長、日本が事務局
SC7：内陸船舶、ドイツが議長及び事務局
SC8：構造、韓国が議長及び事務局
SC11：国際短距離海運及びロジスティック、韓国が議長及び事務局
SC12：大型ヨット、イタリアが議長及び事務局
SC13：海洋技術、中国が議長及び事務局

ISO/TC8 は、毎年 10 月末に総会を開催している。

会議の概要

- (1). パナマ経済産業省副大臣 Manuel Grimaldo 氏及び ISO/TC8 議長 Charlie Piersall 氏が、
開会の挨拶を表明した。副大臣はそのスピーチの中で、パナマが、ISOTC8 に正式
に参加することを表明した。

- (2). SC1 の副議長に、日本が就任できるかとの打診があったため、了承した。船舶防火関係の ISO 規格作成作業は、日本が牽引している。
- (3). SC2 の新作業項目提案「軸馬力計」が、投票の結果承認されている。また、新作業項目提案「エネルギー効率運行指標」は、英国が賛成し専門家を登録したため、成立した。これらを扱う新作業部会 (WG) が SC2 内に設置されることとなる (コンベナー: 韓国)。
- (4). SC3 (議長代行の Li Qinqing 氏が病気入院中で、議長不在の状況が継続) では、燃料流量計 (バンカリング時の燃料受け入れ量計測等) が新作業項目として作業を開始することとなった。
- (5). ISO/DIS 15016 「海上公開試運転の方法」は現在投票中で、各国に支持を要請する決議を採択した。
- (6). 日本船用品工業会のスマートナビゲーションシステム研究会による船内情報に関する新作業提案は、予備作業項目として SC6 で検討を開始し (ISO/PWI 19847) 半年程度の期日で目的及び内容の明確化して、新作業提案へ進めることとなった。
- (7). 韓国が提案した「プロペラのキャビテーション振動測定方法」は、SC8 の作業として進めることとなった。
- (8). 韓国が提案した「国際鉄道フェリー」の規格は、適用国名の明示を避けて一般的な国際規格とすることで合意したため、我が国の懸念は払拭された。本件は、SC11 が作業を推進する。
- (9). 今年新設された SC13 では、潜水船の水圧安全性及び水圧試験方法に関する WG を設置することとなった。SC13 ではさらに、海洋観測、水中ビークル、海水利用の 2 つの WG の設置とその作業内容をさらに検討することとなった。なお、SC13 は今後半年以内程度で、会議を中国で開催する見込みである。
- (10). 海上物流のセキュリティに関する ISO 28000 シリーズの規格については、ISO 28004-2 (中小港湾への適用ガイド) ISO 28005 (電子式ポートクリアランス) 及び ISO 28007 (武装警備員関連) を除くすべての規格が、TMB 決議 68/2014 として新設置されたセキュリティ関係を扱う新 TC292 へ移管されることになった。ISO 28007 の改正作業は、TC8WG5 において引き続き行われている。なお、TC8 は TC292 と TC レベルのリエゾンを締結することとなった。
- (11). シップリサイクル関係の ISO 30000 シリーズの内、アスベストに関しては閾値の如何に係らず inventory を持つことが欧州に帰港する船舶に要求される (EU Directive) ため、ISO 30006 「危険物インベントリー」の整備を急ぐ必要があることを認識し、改正作業を進めることとなった。また同時に、ISO 30007 「解撤ヤードにおけるアスベストの除去方法」も改正することとなった。さらに、ISO 30003 「シップリサイクル・マネジメントを認証する団体の要件」も、マネジメントに関する ISO 規格の最新動向を踏まえて改正することとなった。これらの作業を推進する TC8WG6 のコンベナーは、吉田公一が務めている。
- (12). ガス等の新燃料船に関する TC8WG8 (コンベナー: 米国 S. O'Malley 氏) は、LNG の船舶への補給に関する ISO 規格作成作業を推進することとなった。また、将来の船舶用燃料電池も作業範囲に含めることとなった。

- (13). 極海航行船舶に関する TC8WG9 を設置した (コンベナー : TC8 議長 C. Piersall)。作業内容は、TC8 の二人の Director (安全関係 : B. Townsend、環境関係 : 吉田公一) 及び SC6 議長 (今津氏) が、IMO の極海コードを参照して早急に抽出することとなった。
- (14). 船上でのデータの取り扱い、各種機器の電子情報による連携を扱う TC8 WG10 (Computer application to ships) を設置した (コンベナー : TC8 議長 C. Piersall、プロジェクトリーダー : ノルウェー Ørnulf Jan Rødseth 氏)。
- (15). 海底浚渫船 (Dredger) に関する新 WG を設置した (コンベナー : 中国 Xiaoning Hou)。
- (16). ISO/TC156 (防食) が進めている「Cathodic protection for Ships」に関して、船舶の専門家が不在の TC156 で推進することへの懸念が広く示され、各国に対して、TC156 における本件新作業項目提案に反対するよう、要請した。
- (17). 次回 TC8 総会は、2015 年 10 月下旬に開催する予定である (開催地未定)。
- (18). 次回 TC8 議長諮問会議 (CSAG) は、2015 年 7 月上旬にテネリフェで開催する予定。
- (19). パナマは、次回 TC8SC2 会議のパナマへの招聘を打診してきたため、SC2 内で検討する事となった。時期は 2015 年 6 月下旬が有力。

